

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「見せつけろ！己の底力」「No Limit 福泉」のスローガンの下、
実社会とのつながりや体験的な学びを重視して、次代を担う良識ある社会人として行動できる人材の育成をめざす学校。

【めざす生徒像】

- 1) 「夢の実現に向けて意欲的にチャレンジし、努力を惜しまない生徒」の育成をめざす。
- 2) 「学校、社会のルールを守り、集団生活のなかで他人を思いやり、協力することができる生徒」の育成をめざす。
- 3) 「自分の能力や興味を発展させるために、学校生活に積極的に取り組む生徒」の育成をめざす。

2 中期的目標

1 「学び続ける力」の育成

- (1) 「分かる・できる授業」による「基礎力」の定着をめざす。
 - ・少人数・習熟度別授業、モジュール的ミニ教材、ICT等の活用と継続的な授業研究による系統的・効果的な教科指導の確立をめざす。
- (2) 「受動的な学び」と「能動的な学び」との併用による学習意欲の向上、学習内容の深化をめざす。
 - ・これまで実践してきた授業の内容や方法等を再点検しながら「主体的・対話的で深い学び」の日常化をめざして授業研究を進め、カリキュラム全体の改善・充実を図る。併せて本校生徒に応じた観点別学習状況評価を推し進め、『福泉スタンダード』の確立をめざす。

※3年後の指標（29年度実績）

- ・入学した生徒の卒業率：93%（85%）
- ・授業アンケート「興味・関心をもてた」、「知識・技能が身に付いた」3.0以上を維持（3.09）
- ・学校教育自己診断（生徒回答）「授業はわかりやすく工夫されている」：80%以上肯定（73%）

2 「未来を切り拓く力」の育成

- (1) 教科・総合的な学習の時間・特別活動等を活用したキャリア教育の更なる充実を図る。
 - ・大学や企業・外部講師等を活用した体験的な学習（インターンシップ、体験型進路説明会等）を継続・発展させ、社会への視野を広げ、生徒の進路意識の向上をめざす。
 - ・カリキュラムマネジメント（再点検・改善）と連動させて、入学から卒業、さらに将来を見通したキャリア教育の確立を図る。
- (2) 各種検定、大学進学対策室による進学講習等、生徒の能力の発展や進路実現に向けた取り組みをさらに進める。

※3年後の指標（29年度実績）

- ・年度末進路決定率 100%（95%）、学校斡旋就職[一次合格率 75%以上維持（81%）]
- ・進学者数 120名（104名）、四大進学者数 34名（31名）
- ・学校教育自己診断（生徒回答）：「将来の進路や生き方などについて、学んだり考えたりする機会がよくある」85%以上（74%）

3 「他者と協働できる力」の育成

- (1) 将来の社会人・職業人を見据えた全教職員による生活指導により、規範意識の醸成と自律的行動力の育成を図る。
 - ・「励まし育てる」精神を大切にしつつ、あいさつ、マナー、遅刻、身だしなみ等、日々生徒に寄り添いながら向き合う指導を大切にする。
 - ・家庭との連携協力体制を確固たるものにするため、丁寧できめ細かな情報の共有を進める。
- (2) 家庭・地域等と連携して安全で安心な学校づくりを進め、生徒の自己理解を深め、自尊感情・自己有用感の向上を図る。
 - ・教育相談・生徒支援体制を強化し、いじめ、ネットトラブル、不登校、体罰・セクハラ等の早期発見と適切な対応につなげる。
 - ・SC、SSWや関係機関との連携を深め、教職員の対応力の向上を図る。
 - ・PTAや地域との交流活動（防災教育・ホテル鑑賞会・農業体験等）やきめ細かな情報提供を通じて、開かれた学校づくりを進める。
- (3) 生徒会活動・部活動などを通じて、社会とかがわる実践的な行動力の伸長を図る。
 - ・学校行事、学年行事、ボランティアや地域との交流活動等の改善・充実に努める。

※3年後の指標（29年度実績）

- ・遅刻総数 10,000件（14,153件）、部活動加入率 30%（20.5%）
- ・学校教育自己診断（生徒回答）「学校の決まりやルールは適切である」85%以上（76%）
「学校の決まりやルールをよく守っている」教員回答とのギャップを半分以下に（41ポイント差）
「先生や学校は、いじめに、しっかり対応してくれる」85%（80%）
「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」85%（78%）
「部活動や生徒会活動は活発だ」教員回答とのギャップを半分以下に（35ポイント差）

4 「信頼される学校」・「進化する学校組織」の構築

- (1) 校内授業研究、OJTに加えて、中学校や他の高校、関係機関等との連携・情報提供を計画的に進めて、教職員の力量アップを図るとともに、本校教育への信頼度アップにつなげる。また、ホームページを充実させるなど迅速な外部への情報発信に努める。
- (2) ミドル層を核とした、メンター制による教職員の育成支援や業務の協働を促進する。
- (3) 校務運営を継承発展させる教員の育成を図る。
 - ・OJTによる校内情報ネットワークの活用、生徒支援、分掌業務のスリム化と効率化を推進すると同時に、中核となる教員の育成を図る。

※3年後の指標（30年度選抜実績）

- ・入学者選抜の志願倍率 1.1倍（0.89倍）
- ・学校自己診断各項目について、生徒・保護者・教員のギャップを10ポイント未満（20ポイント以上数項目）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学び続ける力の育成	(1) 「基礎力」の定着 (2) 学習意欲の向上、学習内容の深化	(1) スモールステップや学びのユニバーサルデザインを意識して、ICT機器、資料の活用など、「わかる授業」を工夫する。 (2) 校内初任研を核に他の教員を巻き込みながら、ICTの活用や授業方法等、授業研究を進める。	(1) (2) ・授業アンケートの「興味・関心をもてた」、「知識・技能が身に付いた」とともに3.0以上を維持(3.09) ・自己診断「授業はわかりやすく工夫されている」80%(73%)	
未来を切り拓く力の育成	(1) キャリア教育の更なる充実 (2) 生徒の能力の発展や進路実現に向けた取組み	(1) 企業・大学等外部機関との連携を進め、体験的な学習を核に、進路意識の向上を図る。 (2) 考査や休業期間等の更なる活用等工夫して、進学講習・キャリア支援行事等の取組みを進める。	(1) 自己診断（生徒）「進路や生き方などの学習機会」生徒肯定的回答3%up(74%) (2) 進路決定率100%(95%) 学校斡旋一次合格率75%維持(81%) 四大進学者34名(31名)	
他者と協働できる力の育成	(1) 規範意識の醸成と自律的行動力の育成 (2) 生徒の自己理解を深め、自尊感情・自己有用感の向上	(1) ア. 厳しい環境に置かれている生徒一人ひとりに寄り添いながら、あいさつ、各種マナー、遅刻・服装・頭髪等、家庭と連携を密にした理解と協力の下、全教職員による粘り強い指導の継続を行う。 イ. SNSに係るトラブル防止に向けた啓発 (2) ア. 教育相談委員会等を核に、保健安全部・生活指導部・学習支援部が協力体制を構築してSC・SSW等との連携を進め、中退やいじめ等の防止、丁寧な対応に組織的に取り組む。 イ. 教員が一丸となって部活動や学校行事等の魅力作りに関わる。生徒の活動の様子等を掲示するコーナーやWeb ページの更なる充実など、生徒の頑張っている姿を新鮮なうちにPRする。	(1) ア. 遅刻総数 10,000 件以内に (14,153 件、14,2%減)及び生活指導事案や苦情への即応 (2) ア. 自己診断（生徒）の「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」、「いじめに、しっかり対応してくれる」共に80%(78%、80%) イ. 公式戦出場部員のキープをめざし、部活動加入率30%(20.5%)	
信頼される学校、進化する学校組織の構築	(1) 教職員の力量と本校の信頼度アップ (2) 教職員の育成支援や業務の協働を促進 (3) 校務運営を継承発展させる教員の育成	(1) ア. 授業研究・生徒対応研修等の定期的開催 イ. 保護者・関係団体・地域等への情報提供・収集の迅速化および連携の強化 ウ. 個人情報の管理等、コンプライアンス意識の向上・業務等の再確認。 (2) 校内初任研とミドル層の校内研修とを連携させるなど、若手教員の育成支援や学校運営への積極的な参画を図る。 (3) ア. 前任者等と協働しながら、業務内容の改善や新たな体制づくりを進める。 イ. ノウハウ等の継承に向けた体制や資料の整備をする。	(1) ア. 各学期程度に開催 アイ. 中学校等と連携した研修の複数回開催、多様な形態の広報活動の工夫 ウ. 定期的な確認や研修の実施 (2) ・各学期程度の開催 ・他校視察等を奨励し、初任者各自最低1回は校内で研修発表の場を設定 (3) アイ. 業務改善に特化した運営メンバーによる会議を年3回以上開催。アンケートでの肯定率80%	